



第78号 2007年11月

発行：萩ネットワーク協会
〒758-8555 山口県萩市大字江向510 萩市役所広報課内
TEL 0838・25・3178 FAX 0838・26・5458
萩市ホームページ <http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/>

主な目次

ふるさと文学散歩① 中原中也	P4
元気企業探訪⑥ 萩陶苑	P6
人物ファイル 野坂参三	P10
夢追人「藤岡敏明」(福井上)	P12

9月下旬の9日間開催された「着物ウィーク in 萩」で、今年の着物フォトコンテストが決まりました。グランプリ「おしとやか? (左)宮川雅行(萩市椿)、準グランプリ「お庭を見せてください (右上)三輪哲一(河添)、雅で賞「萩花 (右下)」杉井学 (山口市)。グランプリ受賞作品は、柔らかい光を使って、女性の所作を美しく自然に表現した点が評価されました。

着物を着ていると

人に優しくなれる



平成16年11月に開館した萩博物館が、常設展示室を全面改修し、9月15日にリニューアルオープンしました。今年8月に来館30万人を突破し、11月11日に3周年イベントが開催されます。

「萩博物館」 常設展示室をリニューアル



△慶応年間に長州藩が幕府軍と戦った時に使用していた銃。右列が長州藩が作った火縄銃。左列が外国から輸入した洋式のライフル銃。特にエンフィールド銃(上から3番目)はイギリス製で、先込式としては最も完成度が高く、幕府軍を相手に抜群の能力を発揮した。(下関市の小川忠文氏から借用)

今

回の改修は、歴史の流れとストーリーを重視。歴史展示の展示資料を80点追加し合計約580点にし、展示スペースも拡大しました。

また、全体の展示室も今までの4室から「回廊展示室」、「萩いきものステーション」、「くらしの展示室」の3室を増やし7室にし、展示スペースも全体で約400㎡増床しました。

○歴史展示「毛利氏と城下町」、「長州藩と明治維新」

萩開府から明治維新まで、長州藩260年のあゆみを甲冑など実物資料や模型でたどりませ。また、幕末維新期に使われた銃を初公開(写真)。

○萩ゆかりの人々

江戸時代末から現代にいたる著名な「萩ゆかりの人々」100人を政治・軍事、産業・経済、教育・文化などの分野別にパネル展示

■問い合わせ 萩博物館

(0838・25・6447)

幕末の思想家・吉田松陰の一生を絵図で表した珍しい絵伝が、現在、萩博物館で開催中の松下村塾開塾150年記念の企画展「長州男児の肝っ玉 松門四天王と桂小五郎」展(12月16日まで)で初公開され、注目を浴びています。

「吉田松陰先生絵伝」 萩博物館企画展で初公開



△「松下村塾で指導」

松下村塾の講義の様子を描いたこの絵図は、先生が前で生徒が対面に座っている普通の塾の講義風景と違い、机を平行に対面に並べて塾生同士が顔を向け合って議論しやすい配置をしています。また、屋外で農作業をしているのは塾生で、学問だけでなく、実際に体験作業を行うという実践を重んじる松下村塾の塾風を感じさせます。

絵伝は、松陰門下生のうち最長の昭和14年まで生き、長崎造船局の初代局長を務めた渡辺嵩蔵(1843~1939年)の曾孫、渡辺寛氏(千葉県在住)から平成16年(2004)に萩市に寄贈された遺品の中から見つかったものです。

「吉田松陰先生絵伝」と題されたこの絵図は、水彩画で15葉の構成。ほぼA4判サイズで折本になっています。嵩蔵の実兄が13葉を描き、最後の2葉は嵩蔵の娘八女が描き足したとされています。

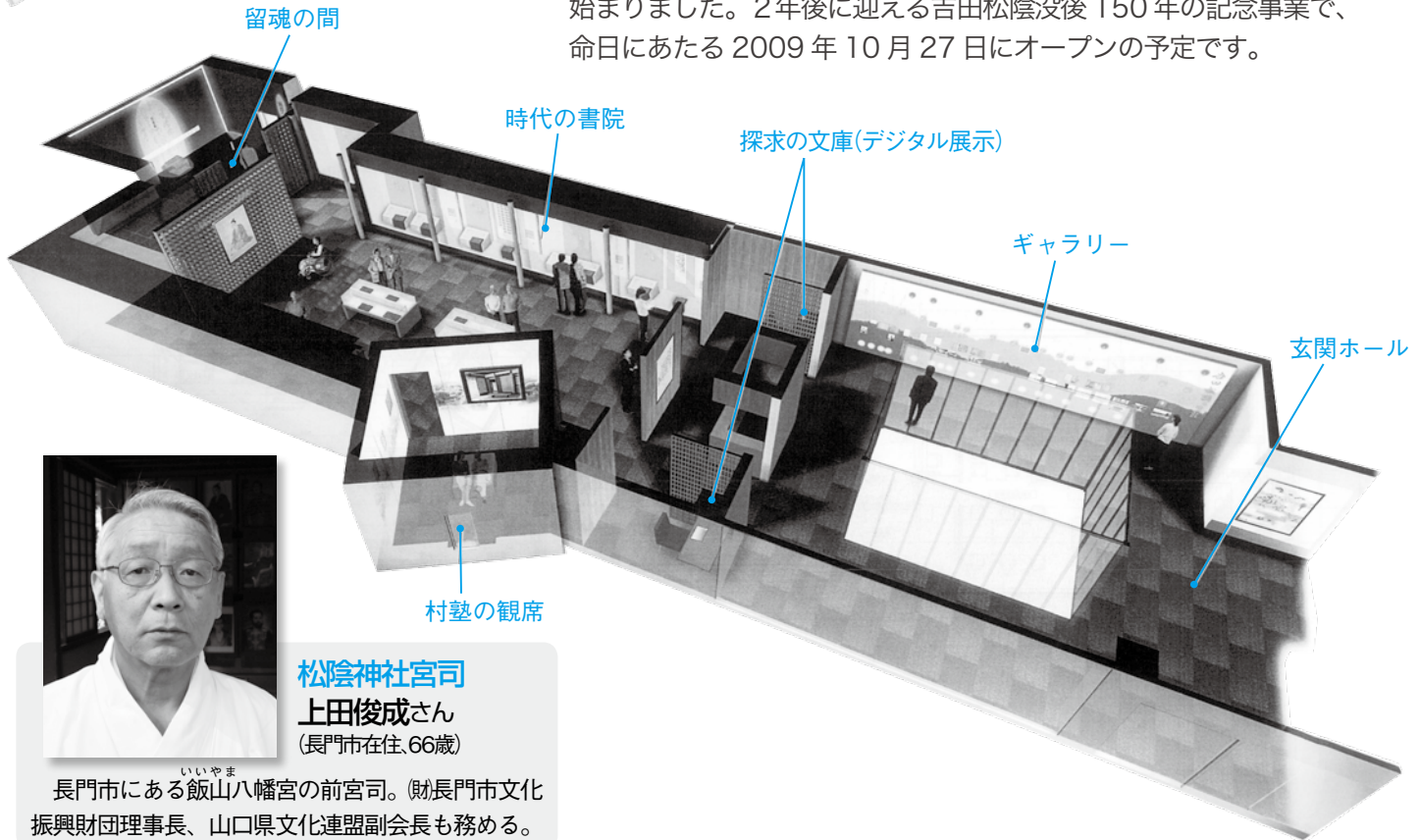
絵伝は「松陰の生家」から始まり、11歳で萩藩主毛利敬親の御前で兵学の講義をした「御前講義」、「松下村塾で指導」、死罪が言い渡された「評定所で宣告」、「萩の松陰神社」までの15の主要な場面が描かれています。萩博物館では「松陰と主だった弟子は活躍の期間が短かったためか絵や写真などはほとんど残っておらず、当時の模様をビジュアルに知ることができる大変貴重な資料」と高く評価しています。

この絵図は、展覧会に合わせて出版された「松下村塾開塾150年記念 吉田松陰と塾生たち」(A4判82ページ、1000円)に全15枚が大きく掲載されています。

松陰没後150年の09年10月にオープン! 松陰神社に「宝物館」着工



松陰神社（上田俊成宮司）で、8月23日、境内に吉田松陰関係資料を収蔵・展示する「松陰神社宝物館」の起工式が行われ、建設が始まりました。2年後に迎える吉田松陰没後150年の記念事業で、命日にあたる2009年10月27日にオープンの予定です。



松陰神社宮司
上田俊成さん
(長門市在住、66歳)

長門市にある飯山八幡宮の前宮司。(財)長門市文化振興財団理事長、山口県文化連盟副会長も務める。

募財活動を実施中!

宝物館の建設など吉田松陰殉節150年記念事業を計画、運営している「松陰先生殉節百五十年記念事業実行委員会」(会長:野村興児萩市長)では、事業を推進するため、募財活動を行っています。

■事業内容 宝物館デジタル展示、宝物館導入展示、松陰先生ゆかりの地の集い、宝物館愛称募集

■募金依頼額 一口1,000円

※法人の場合はできるだけ5口以上

■募財期間 平成21年9月30日まで

■募財方法 次の金融機関の口座に振り込み

- 山口銀行萩支店(普)6344031
 - 西京銀行萩支店(普)2017624
 - 萩信用金庫本店(普)0493206
 - 中国労働金庫萩支店(普)5252452
 - あぶらんど萩農業協同組合萩支所(普)0005167
 - ゆうちょ銀行 01380-5-85276
- (名称) 松陰先生殉節百五十年記念事業実行委員会

※募財された方には、ご芳名を記録して永久保存。また、松陰神社宝物館の優待券を進呈

■問い合わせ 松陰先生殉節百五十年記念事業実行委員会事務局(松陰神社内) ☎0838・22・4643

◎常設展示の内容

◆留魂の間 松陰が処刑される前日に門弟にあてた手紙「留魂録」を展示

◆時代の書院 松陰の生涯を「生誕と家族」「兵学修業」「遊歴」「野山獄」「松下村塾」「再獄」「殉難」

◆宝物館は、松下村塾の南側、社殿に向かう参道の右側に建設されます。鉄筋コンクリート造りの平屋建約500㎡で、事業費は約3億円。

館内は、年表パネルや映像で松陰の生涯を無料で概観できるギャラリーと、松陰神社が所蔵する松陰の遺墨を中心に公開する常設展示(有料)で構成されます。

の7つの時代に分けて、松下村塾で使用した教科書など関係資料を展示

◆村塾の観席 松下村塾の真向かに設けた8畳の小部屋で、小窓から松下村塾を眺める

◆探求の文庫(デジタル展示) 松陰が歩いた全国の足跡を含めた外部の情報も入れたデジタル展示

上田宮司は「宝物館は、松陰先生の遺墨を永久保存するのが主な目的ですが、同時に展示も行い、松陰先生の全てが分かるような施設にしたい。完成したら、ぜひ一度来館してほしい」と話されました。

中原中也と萩



18歳(大正14年)頃の中也



冬の長門峡

今年(100年)は詩人、中原中也の生誕100年にあたり、ゆかりの山口市では中原中也記念館を中心に多彩な記念事業が行われ、若くして逝つた中原中也を偲んで、中也と萩の関わりをいさげれば先ず「冬の長門峡」があげられる。

裁した沿道の桜並木が調和して春の趣も楽しい。

「長門峡」の名付け親は高島北海だという。高島北海は当地区出身の明治期の官僚で、国費留学生としてフランスのナンシーに赴き、森林学を学んだのだが、語学がままならない中、ナンシー市民と触れあう際得意とする日本画の技法をしぼしば披露したという。こうした中から若きエミール・ガレら所謂ナンシー派の画家達と親交し、彼らに「東洋と自然」という概念で非常な影響を与えた。北海は医家の出身であったから、幼少期薬学の基礎としての草木や昆虫類の細密画の修行をしていた。ガレの多彩な作品から草木や昆虫類をモチーフにした数多くの作品が見られることから、ガレが北海に多大な興味と畏敬の念を持っていたことがうかがい知れる。

金をつくり長門峡の整備に力を尽くした。昭和初期の溪谷は細い道を付けただけの淋しい地であったのに、中也は短い生涯の中で幾度もこの溪谷を訪れている。

中原中也記念館の中原豊副館長にうかがうと「この詩は昭和11年の12月24日に書かれたもので、前の月に長男文也を亡くし悲しみの中での作です。中也は日頃ペンで詩作するのですが、この詩は筆で書かれていますから特別の思いなのでしよう。推敲の際各節に配していた『寒い寒い日なりき』を筆太の墨で消して詩調を整え、より重い抽象に押し上げています。文也の極短い生と自身のそれとを凝縮させた中也の深い思いを感じます。」中也の詩は、さりげない表現ですが、心の深いところに響くのです。誰にでも書けそうで、誰にも書けない、それが中也の魅力です。」と話してくれた。

月には逝去した。未亡人となったフクは医院の施設を知人の医師に貸し、萩の友人の世話で中也の弟の二人の中学生を連れて萩町河添56番地の借家へ転居した。経緯については萩市の郷土史家故田中助一の調査が貴重な。この家は元々榎崎頼三郎であった。榎崎頼三は藩校明倫館の出身で、文久3年の下関の攘夷戦に参戦した後各地を転戦。維新政府では兵部省に入って活躍するが、国費留学生として派遣されたパリで病を得て客死した。中也と同じ30歳の若さだった。中原フク一家が借家した頃はこの家には榎崎の子孫のマツが一人で住んでいた。マツは母屋をすべて中原家に貸し、自分は門長屋で独り余生を楽しんでいたという。中也の弟たちは萩中学の3年と4年に転入し、二人の子どもが中学を卒業した昭和6年3月、中原一家は3年ほどの萩での生活に終りを告げて湯田の家に帰った。長男の中也はこの時期東京で詩人として独

長門峡は、中国山脈の奥地点から萩地域に向けて流れる阿武川の上流が、花崗岩の浸食によって6kmにわたって曲折した峡谷となり景勝を創っているのだ。

古くガイド本では「巨岩、奇石、急流、瀑布、深淵織りなす名勝なり」と記されている。今は国の名勝、山口県の県立自然公園の指定を受けた紅葉の名所として、晩秋の一時期峡谷の遊歩道は観光客で賑わいを見せる。近年は山桜と植

われは料亭にありぬ。酒酌みてありぬ。われのほか別に、客とてもなかりけり。水は、恰も魂有るものの如く、流れ流れてありにけり。やがても蜜柑の如き夕陽、欄干にこぼれたり。あゝ！—そのやうな時もありき、寒い寒い 日なりき。

父謙助は軍医を退いた後病院を開業していたのだが、昭和3年5

市湯田に生まれた。中也は明治40年4月、陸軍軍医中原謙助の子として山口市湯田に生まれた。

父謙助は軍医を退いた後病院を開業していたのだが、昭和3年5

市湯田に生まれた。

父謙助は軍医を退いた後病院を開業していたのだが、昭和3年5

市湯田に生まれた。

父謙助は軍医を退いた後病院を開業していたのだが、昭和3年5

中原中也記念館(山口市)

- 所在地 山口市湯田温泉1-11-21 (松田屋ホテル向かい)
- 開館時間 9:00~17:00 (11月~4月)、~18:00 (5月~10月)
- 休館日 月曜日、毎月最終火曜日
- 入場料 一般310円、大学生210円、小・中・高校生150円、70歳以上は無料
- 問い合わせ 083-932-6430

立っていたから、萩での生活を共にしたことはないのだが、帰省の時は家族が住んでいたこの寓居に帰った。それは中也が岩国出身の評論家、河上徹太郎に出した葉書によって知ることが出来る。この中で中也は寓居では井戸で冷やしたビールを飲み、よく読書したと告げ「終日松林の中に寝ころんでいて、空が落ちてきても平気です」と記している。

が、大きな松の並木が僅かに當時と変わらぬ風情を伝えてくれる。そこに立つと時空を越えて中也も感じたであろうサワサワとした風の囁きを聞くことが出来る。榑崎邸はその後人手に渡って、現在は横山耕二さん(57)が広い敷地内に新しい住宅を建てて過ごしている。横山さんは「榑崎家や中原家などに縁の深い屋敷でしたが、老朽がひどく残念ながら20年ほど前に取り壊しました」という。

この家の現在地が判らなかったので読売新聞萩支局の横木稔郎支局長に案内を乞うた。横木支局長は現場近くに代々住んで来た萩人で、「ここは橋本川の下流の堰堤に近く、当時堰堤は松林に被われ手前には畑地が広がっていました。榑崎邸は立派な門構えの広い屋敷で、門の両側には門長屋が付いていて、子どもの頃は格好の遊び場でした」という。現在は堰堤の中央に道路が走り昔日の面影はない

詩については門外漢の私だが、三詩少年の頃「冬の長門峡」を口ずさんで憶えていたことを思うと不思議な気がする。それも専門家の分析とはほど遠い理解で、例えば中也の幼子をくくした寂寥な傷を想い詩調の好感度から口ずさんでいたのだから。

古陶磁研究家で画も詩も書く青山二郎は、中也の詩集のほとんどの装幀を手がけているが「優れた詩人が、美を歌ったことはない。歌い得るものでもない。美はそれを観たものの発見である。創作である」と述べている。青山は中也や小林秀雄、河上徹太郎らと交遊が深く、詩論についても突っ込んだ語り合いをし三人三様に持論を持つている。青山の思いを推論すれば「詩人の心に迫ることは難しいが、読む側の感性次第で、詩人が発した言葉の裏にある本質を考えることは出来る」とも聞こえる。いずれにしても私には自分の感性を通して詩に素直に親しみ、詩情を心の糧とすれば、難しく考えなくてもそれはそれのように、素晴らしいことのように思う。



萩での中原家の寓居



現在の跡地 (河添)



「山羊の歌」「在りし日の歌」など所収 (角川書店、2000年刊行)

あなたの定住を応援します！ 萩ふるさとターン応援団

問い合わせ
萩市企画課 (0838・25・3819)、定住支援ホムページ <http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/teiyu/>

萩市にUJターナーされた皆さん④



長岡茂子さん (62歳)

現在、長岡さんは、市内で行われるさまざまな講座等に参加され、楽しい日々を過ごされています。

「萩は新鮮な食材等豊かな素材に恵まれています。これらの旬の素材を使った日本料理の教室で、魚の調理等の指導を丁寧に受けています。他にもコンテナガーデンや市民講座等にも参加していますが、UJターナーされた方たちとの出会いもあり、大変充実した日々を過ごしています。家ではガーデニングや家庭菜園を通じて、近所の方たちとの交流も深めています」

▽アドバイス

こちらの生活に慣れるまでは確かにテンポの違いを感じますが、各種講座やイベントに参加されると、萩のつきあひ方、楽しみ方が少しずつわかってくるし、その中で、気の合うもの、同士の意外な出会いがあります。

(有)萩陶苑

高強度・低吸湿の「新萩焼」の開発に挑戦！

去る8月2日、経済産業省中国経済産業局は、平成19年度地域資源活用型研究開発事業として、「萩焼の風合いを生かした実用的な高強度・低吸湿性陶器の開発」（新萩焼ルネッサンスプロジェクト2007）を選定したと発表した。そのプロジェクトの中核メンバーとして(有)萩陶苑が参画している。萩焼に新しい世界を切り開き、低迷する萩経済の活性化の一助になればと、その抱負を代表・磯部さんにお話をお聞きした。

3年前から強化萩焼を独自研究

萩焼という貴重な伝統工芸資産を身近に持ちながら、萩市内の旅館ホテル・飲食店で、料理を萩焼の器で提供するところは殆どありません。それはおかしいと考えたのが今回のプロジェクトの出発点でした。

汚れやすい・弱い・欠けやすい・すぐ割れる・カビがはえる・食器洗浄器や電子レンジなどが使えない・重く嵩張る・漏れる・吸水性が高く衛生的に問題があるのではなどなど・・・、旅館・飲食店の厨房担当者にヒアリングした結果はことごとく否定的なものばかり。要するに使用したくないということ。ご存知のとおり萩焼は茶道具から始まり、「七化け」といわれるように、使い込むことにより茶渋が表面の微細な亀裂（貫入と呼ぶ）から内部に入り、微妙な変化を見せます。それが萩焼独特の持ち味なのですが、前述のとおり、旅館ホテルや料理屋等の営業使用には

数多くの課題があることは事実です。

一方、萩焼の個人需要についても近年低下傾向です。百貨店の店頭陳列を見ても、徐々に陶器のスペースが少なくなってきた、萩焼の展示数も削減されてきています。一般家庭での普段使いの器としても、萩焼は使いにくいというのが販売不振の原因のようです。また、結婚式の引出物などのギフト需要についても、安価な中国製などにどんどんシェアを奪われてきています。このままでは萩焼のマーケットは確実に縮小し続ける、危機感にも似た気持ちになっていました。

そこで、3年前から、萩焼独特の風合いを活かしつつ、強度を高め、吸湿性の低い「強化萩焼」の研究に独自で取り組み始めました。担当者を1名張り付きにして、山口県産業技術センターなどにご協力を頂き、いろいろと試行錯誤をしてきましたが、今回、経済産業省のプロジェクトに選定、約5000万円の予算も付き、これ

まで細々と続けてきた研究開発が一挙に加速できると喜んでいきます。

強度の目標は現状萩焼の3～4倍

新萩焼ルネッサンスプロジェクト2007、具体的には4つのテーマに取り組みます。

- ① 高強度・低吸湿性萩焼陶土の開発
- ② 高強度萩焼に適した釉薬の開発
- ③ 高強度萩焼の鑄込成形技術の開発
- ④ 高強度萩焼の特色を活かしたデザイン開発

このうち、当社は①②を主に担当します。強度の目標は現状の3～4倍、吸湿性については3%以下。「萩焼の風合いを活かす」ということと、「強度・吸湿性のコントロール」ということは、いわば相反するもの。あちらを立てればこちらが立たないという、まさに矛盾した事に取り組んでいくこととなります。これまでの独自研究で、従来の概ね2倍の強度とい



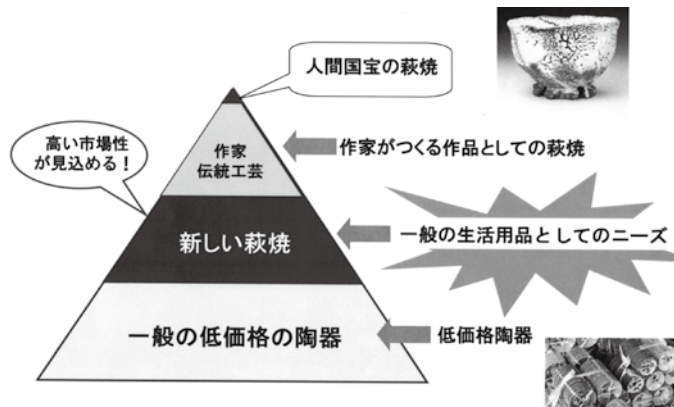


萩陶苑 椿秀憲 (しゅうとうえん ちんしゅうがま)

[設立] 昭和49年12月
 [創業] 昭和50年1月
 [代表者] 代表取締役 磯部直樹
 [資本金] 1,200万円
 [事業内容] 窯業・萩焼製造販売
 [従業員数] 45名
 〒758-0061 萩市椿3775 TEL0838・22・2441
 FAX 0838・26・0330 <http://www.hagiyaki.co.jp>

磯部直樹 (いそべなおき)

1950年(昭和25年)萩市生まれ 満57歳
 萩市椿在住 萩光塩学院→萩第一中学→萩高校→山口大学農学部獣医学科卒。昭和48年、日本配合飼料(株)入社、昭和61年に(有)萩陶苑入社、62年に取締役、平成3年に代表取締役就任。(社)萩市観光協会副会長、(社)萩物産協会理事などを務め地域活性化にも取り組む。趣味はオフロードバイクなど。



うところまでは到達していますので、何とんでもこの目標はクリアしたいと思っています。今回の強化萩焼プロジェクトで、萩焼の良さをキープしつつ、その欠点を解消する新しい萩焼が開発できれば、萩焼のマーケットを再び活性化できると確信しています。

さらに、食器・茶器などに留まらず、強化萩焼の技術は建築資材や内装資材、家具、特産品容器など、今では考えられない分野に用途を拡大していくことも可能になると思います。もちろん今回の研究成果は業界に公開、新しい技術を使った萩焼を他のメーカーさん

や窯元さんにもどんどん活用していただき、さらに発展させて頂ければと考えています。萩焼という萩固有の伝統工芸資産を、この先50年後100年後に引き継いでいくためにも、意義のあるプロジェクト、遣り甲斐は大きいです。また、このような試みに社を挙げて取り組むことで、我が社の従業員達も元気になってくれると信じています。

★プレゼント
 3名様に抽選で萩陶苑オリジナルの萩焼(3000円相当)をプレゼントします。申込方法は15ページ。

阿武町

**無角和牛まつりに
 5,000人
 ヘルシー牛肉140kgを
 たいらげる**



△ 600人分のステーキが完食

阿武町特産・無角和牛の美味しさと、安全性を広くPRする「無角和牛まつり」が10月14日、道の駅「阿武町」で開催され、町内外から訪れた5000人が食欲の秋を満喫しました。

無角和牛は、日本の和牛4品種のうちの1種で、大正9年に阿武・萩地区で飼育されていた在来和牛と、欧米で一番おいしいとされる肉、アバディーンアンガス種を交配させて誕生した牛です。肉質の良い赤身肉が特徴、肉本来の持つうま味とヘルシーさが自慢です。現在、町の繁殖センターや牧草地などで170頭が飼育されています。まつりのメインは、無角和牛の焼き肉とステーキコーナーで、

焼き肉400食は特製のタンパク質分解酵素を多く含むキウイ果肉入りタレで食べます。地元出身のレストランオーナーによるステーキ6000人分140kgの調理販売コーナーは、9時の開始早々に長蛇の行列ができ、昼過ぎには完売となりました。

また、掘り出し物満載の「道の市」や地元漁師による「奈古新鮮活魚市」、漁船による「日本海クルーズ」なども同時開催され、人気を集めていました。

◎無角和牛は、道の駅「阿武町」(08388・22828)のほか「秋しまーと」(08388・244937)でも販売しています。

〓山口県初のアイリッシュパブ〓



Sam's OPEN!!

■営業時間 午後7時～11時 ■住所 萩市南片河町62番地
■定休日 水・木曜日 ☎0838・22・1755

山口県で初の本格的アイリッシュパブが9月14日、萩にオープンしました。萩城下町の一角、萩博物館近くの外堀通り沿いにある「庭園カフェ畔邸」の土蔵を改装して作られました。

オーナーの吉井貞夫さん(南片河町 60歳、平成12年に東京からUターン)が、商社マン時代に赴任したアイルランドで通ったパブに魅せられて作ったこだわりの店。

店内はすべてアンティーク調でまとめられ、カウンターやテーブルなどは信州の家具店からの特注というこだわりぶり。また、AV装置もあり、テレビやDVDも観賞できます。

この店のメインはアイルランドの首都ダブリンを創業の地とするギネスビール。一見苦そうに見えますが、大変まろやかな味とクリーミーな泡が特徴で、ビールの苦手な女性でも美味しく飲めます。ドラフト・ギネスは1パイント(約560ml)800円、ハーフパイント(約280ml)500円。その他にも、アイリッシュウイスキーや限定カクテルなどもあります。



来年も、9月13日に同じ会場で開催の予定です。三見出身の方はお気軽にご出席ください。

〓手打ちそばと萩焼の器が評判〓



がんこ庵

移転オープン!!

■営業時間 午前11時～午後7時30分 ■住所 萩市江向587番地
■定休日 火曜日 ☎0838・22・6271

萩市呉服町の木戸孝允旧宅前の手打ちそば「がんこ庵」(店主:坂中勇介さん、椿61歳)が萩商業高校前の道路沿い、玉木病院前(中央公園近く)に移転し、9月14日からオープンしました。

先祖代々から守り続けてきた手打ちそばと萩焼の器が評判のこのお店。移転は、店の場所が分かりにくく、店に行くのに道に迷うお客も多かったため、新しい店は古い民家(渡辺弦介邸、当時北浦唯一の弁護士)をそのまま使用し、昔ながらの風情が漂っています。

国産のそば粉を使い、石臼でひいて作る手打ちそばは風味、歯ごたえがよく、人気メニューの小五郎そば(930円)は、5種類の萩焼の小皿にそばが盛りられています。その他、毛利そば(1,050円)、天ざるそば(1,450円)、鴨ざるそば(1,280円)が人気。



小五郎そば▷



会員投稿

9月15日
三見中同窓会
銀座アスター(中央区)

○宮木宗史

(神奈川県藤沢市)

今年で9回目を迎えた三見中学校の同窓会が開催されました。同窓生20人と小学校時代の恩師・末益先生が出席されました。新たに4人の方が参加。

お互いの近況報告や「萩・三隅道路」についての賛否両論など大いに盛り上がりました。年齢とともに望郷の思いがつのる中、子ども時代に戻って語り合えた幸せなひとときでした。全員で神田明神におまいりをして締めくくりました。

野村 萩市長

— 寄稿 —

中国・瀋陽市を訪問

9月18日から21日にかけて、野村興兒萩市長が中国の瀋陽市（旧称奉天）を訪問し「北東アジア地域発展の協力フォーラム」に出席しました。到着した9月18日は、満州事変が勃発した1931年の柳条湖事件の記念日……。



◁九・一八歴史博物館
満州事変を中国では
九・一八事変と呼ぶ



▷「忘れてはならない
九・一八事変」のスロー
ガンに衝撃を受ける

瀋陽は人口737万人を擁する中国でも有数の都市、御年配の方々には奉天といえば、懐しく思い起こされるのではないだろうか。明が滅亡し、新たに勃興する清王朝の都がこの瀋陽であり、北京に遷都してからも、副都としての取扱いを受け、北京のものとは規模は小さいものの故宮や皇帝や皇后の陵墓はユネスコの世界遺産になっていきます。満州国時代には、新京、大連などと並ぶ重要都市として、萩とも深い関係のある都市です。久原房之助の流れをくむ日産コンツェルンは当時の満州に巨額の投資を行います。このため萩からも多勢の人達がこの地で経済活動に従事しました。戦後引き揚

げて来られた方々を、奉天の伯父さん、大連の叔母さん等と呼称されていたことも多かったと思えます。瀋陽の中央広場には、李香蘭（山口淑子）が夜来香を歌ったといわれる大和ホテルや横浜正金銀行、興銀、関東軍等々の建物群が、往時のそのままの姿で残っていることに驚かされました。（写真左）

東軍の東北三省（満州）の戦闘が始まった。この日を忘れぬため毎年この時間になるとサイレンを吹鳴する行事を行っているとのこと。フォーラムを終え、九・一八歴史博物館を特に希望し、案内していただきました。この日から関東軍の戦術が展開される、東北地方の受難の日が始まる。「勿忘九一八」のスローガンには胸痛み、衝撃を受けました。（写真上）

萩から釜山への距離は、大阪への距離の1/2、東京よりもソウルの方が近い、札幌よりも瀋陽への距離の方が近い。北東アジアとの経済交流、観光交流等がこの至近の距離にある萩から展開できないか、そういう想いを新たにしたい。



△大和ホテル（瀋陽の中央広場）
李香蘭が夜来香を歌ったと言われる



萩出身の野坂参三



野坂 参三(のさか さんぞう)

革命家・政治家

1892年(明治25)～1993年(平成5)101歳

大学卒業と同時に革命運動に専念。1931年日本を脱出、モスクワ・中国延安で活動。戦後日本共産党を指導、衆・参両議員を務める。中央委員会議長に就任、日本共産党の歴史とともに歩んだ。

平成19年の春、野坂参三の養女の野坂米子さんと野坂の甥の葛野修三さんが萩在住の陶芸家の仲立ちで萩市に野村興児市長を訪ねた。野坂米子さんは「野坂の遺品の一部を野坂の生まれ故郷の萩市に寄贈したい」と申し出たという。

米子さんの語った所によれば、「野坂は平成5年(1993)の11月東京で天寿を全うした」という。「この度東京の住居を引き払うことにして遺品を整理し、萩の野坂家と小野家のお墓を詣でたのですが、野坂が晩年萩のことを口にするが多かったことを思い、もし可能なら遺品の一部を萩の地に残したい」という事であったという。

野坂参三の生涯は、日本における共産党運動の歴史そのものである。

野坂は日本共産党の歴史とともに歩き、後半生は最高幹部として幾多の役職をこなした。退いてからも、名誉議長として親しまれてきたが、最晩年、ある事件によって「自分そのものとも言える共産党」を除名された。昨今、思想的左右を問わず野坂参三を知らない人は少ないが、野坂が萩市の出身であることを知る人もまた少ない。

野坂参三は明治25年(1892)3月30日、萩市御許町の肥料商、小野五右衛門の6人兄妹の末っ子として生まれた。母方の跡取りが亡くなったのでその姓、野坂を継いだ。野坂によれば、「少年時代の生活はとても苦しかった。家業の肥料商は、安価で効果的な化学肥料が大量に出回るようになってから傾き、更に父が他人の借金の保証人になったことからついに倒産状態になった」のだという。

こうした心身の疲労もあってか父も母も野坂が14歳の時、相次いで亡くなった。野坂は神戸で材木商を営んでいた一回り年上の長兄に引き取られ神戸の商業学校に、さらに慶應義塾に進ませてもらった。この頃から共産主義の考え方に強く惹かれ、のめり込んで行く。

大正6年、卒業するとそのまま労働運動の拠点、友愛会の書記となり職業革命家としての活動に専念することになった。

野坂は自伝のなかで「私も幼少の頃から吉田松陰の遺跡を見に行ったり、彼の生涯の物語をきいて、彼の影響を強く受けたようだ。それは彼の思想ではなくて、彼が『国のため、信念のために一身をささげた』という愛国的、英雄的な行動に感動したためであった。」と述べている。野坂が吉田松陰を尊敬していたという事実は、とても興味深いことだ。

野坂は大正8年友愛会の特派員として渡英し、イギリス共産党に入党する。因みに日本共産党の創設は大正11年のことだ。

野坂はイギリスから帰国した大正11年5月、父母の17回忌の法要のため帰省する。

「長兄を頭とする兄弟、姉妹、甥と姪、総勢8人が、橋本橋のもとにある、なじみの富田屋という宿屋に落ち着いた。翌日昔から懇意だった人たちを訪ねたが、このほうは、どうも照れくさくて困った。というのは、古老たちは、どここの家でも「洋行帰り」の30歳になる私をつかまえて、「参坊、大きく変わったのう」と、途中の15年の歳月など無かったかのような

話し方をしてくるからであった。」

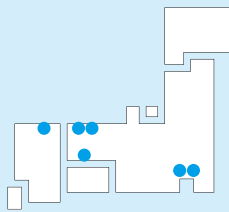
国内での活動は「治安維持法」の前に困難を極め、昭和6年(1931)野坂は妻龍と日本を出国する。非合法にモスクワへ入り、コミンテルン活動に従事する。その後、アメリカや中国延安などでの長い海外活動を余儀なくされた。そして昭和21年、16年ぶりに帰国し熱狂的な歓迎をうけた。野坂は意気軒昂で「統一戦線の実現」を強く呼びかけ大衆の共感を得た。この年の総選挙で共産党は大躍進し、野坂自身も衆議院議員となった。

次いで昭和31年参議院議員に、さらに昭和33年党第7回大会で中央委員会議長に就任した。この辺りの20年間で野坂にとつて華やかな第一線の時代であった。世情も安定に向かい党活動も進展したが、一方で党内の路線闘争は激しく、除名が相次いだ。昭和39年には同じ萩出身の志賀義雄も神山茂夫、中野重治らとともに除名されている。幾多の闘争を勝ち抜いた野坂は、昭和57年議長を宮本顕治に譲って名誉議長となる。

昭和47年の満ち足りた時期、「明治維新の発祥の地―萩―」という寄稿が雑誌に載った。

「町は、萩城を要に武家屋敷町、

同窓会だより



★事務局からのお知らせ

クラス会、同窓会、皆さんからの投稿記事をお待ちしています。萩ネットワーク事務局まで、お送りください。また事前にご連絡いただければ、資料をお送りします。

10月18日
山口指月会
翠山荘(山口市)



恒例のビンゴゲームで盛り上がり。余興で田中文夫県議(昭42年卒)のトランペットにあわせ、新谷和彦県議(昭37年卒)が「千の風になって」を熱唱。

9月8日
九州指月会
平和楼(福岡市)



福岡市在住の野村茂治氏(昭23年卒)が自作の詩「ふるさとの萩」を披露。「往年燃えた萩の町 みかんの花香うっすらと 土堀の中より流れ来ぬ 遠い昔がしのばれる…」

10月20日
東京指月会
日本工業倶楽部(千代田区)

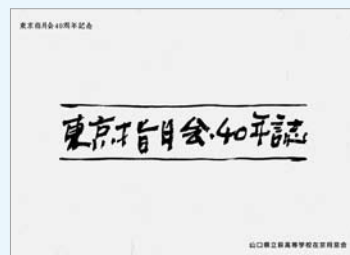


昭和43年に設立され今年が40周年、記念して40年誌を発行。ありきたりの記念誌ではなく、年度ごとに同窓生40余人の寄稿を掲載した大変な労作。鹿野俊二氏、川瀬正臣氏など編集人の苦勞が偲ばれる。



10月20日
たちばな会本部総会
萩商業高校(萩市)

来年3月の卒業生をもって萩商業の歴史を終えるため、本校で開催は最後の同窓会。萩商業吹奏楽部の伴奏にあわせ校歌斉唱。剣舞は萩商3年の柳井田拓也くん



題字は墨画家・森川翠水氏



墓碑(泉福寺・浜崎町)

野坂の墓所は萩市浜崎町の泉福寺だが、泉福寺は吉田松陰の菩提寺でもある。日本の明日を憂えた二人の思想家は、奇しくも同じ京下で萩の町の将来を見守っている。

寺町、細工人町、商人町と画然と区別されていた。その町人町のひとつ、御許町にある私の生家は他人の手に渡ってはいないが、時流に抗するように、少年時代と同じ侘びしい姿で佇んでいる。このよいうな風物と共に、萩は、日本を封建制度から新しい資本主義制度に変革させた、明治維新発祥の地としてその史跡を数多く残している。(略) 回天の大事業はここから起こったとか、身を捨てて国のため尽くすことがいかに尊いかなどを、何度も聞かされた。こうした環境のもとに少年時代を過ごしたことが、長じて私に人民解放の道を選ばせた重要な素因になっていることは確かである。」と。

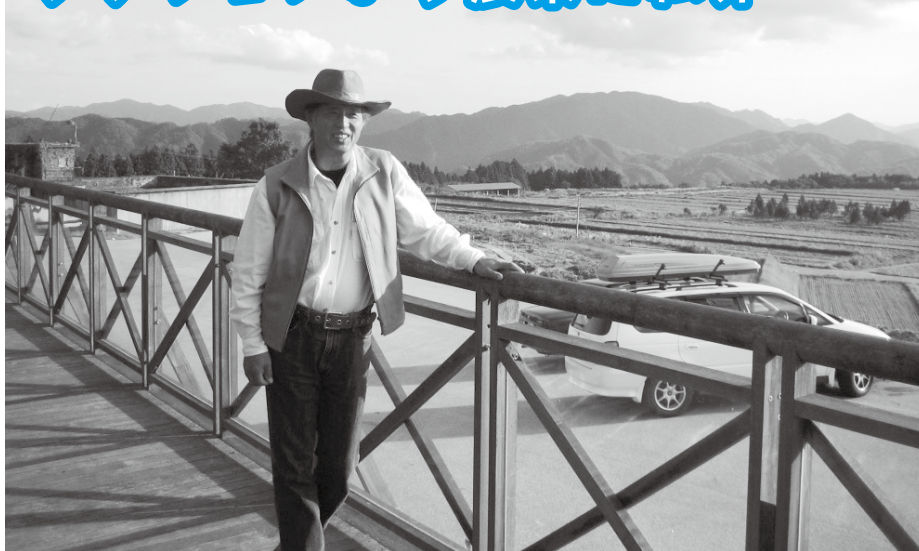
こうした穏やかな回想を楽しむほど落ち着いた生活を過ごしていた野坂は、その最晩年、思いもよらない窮地に立たされる。平成3年(1991)の秋、モスクワの国家保安委員会の文書から野坂が同志を裏切ったという事実が判明した。平成4年、党創立70周年の式典が終わって間もない9月、党中央委員会は野坂の名譽議長を解任し、ついで除名処分を決議した。

「自分の力は小さいけれど、すべてを人類解放のために捧げるこゝとが出来たと、こういう気持ちで生涯を終わりたいものだ。これからは生きたらどうか。」野坂はこのように述懐していたのだが、最晩年は心ならずものとなった。

平成5年11月14日、野坂参三死去享年101

(高井 誠 エッセイスト 日本ペンクラブ会員)

芸能プロダクションから農業に転身



藤岡 敏明さん

(萩市福井上在住 56歳)

山口県山陽町(現・山陽小野田市)生まれ。地元の小中を経て、香川学園高校から法政大学経営学部へ。卒業後は約5年間東京でのサラリーマンを経験。その後、エクステリア卸会社を自ら設立。輸入家具を扱う貿易会社を経て北九州小倉の芸能プロダクションに入社、取締役部長として活躍。48歳で萩市福井上の平蔵台に移住、タバコ栽培を中心に営農に従事する。

芸能プロダクションの取締役部長という華やかな仕事に区切りを付け、8年前に萩市(当時は福栄村)に移住(「Jターン」、タバコ栽培を営む藤岡さんを平ららび台に訪ねた。待ち合わせ場所に現れたのは、カウボーイスタイルが板についた精悍なフアーマーだった。

華やかな芸能の世界からの転進

大学卒業後、ケミカルポンプ(化学薬品用の特殊ポンプ)メーカーに就職し、約5年間東京でのサラリーマンを経験しました。その後、ホームセンターにエクステリアを卸す会社を自ら設立し、社長業を

約10年。その会社は人に譲り、しばらくの充電期間後に輸入家具を扱う貿易会社に。以前より芸能関係に関心があり、41歳の時、北九州小倉の芸能プロダクションに入社、華やかな芸能の世界で約5年間過ごしました。NHK紅白にも出演する演歌歌手のプロモーションや、小倉という地の利を活かしてお隣り中国から雑技団を招聘する仕事など、昼夜を問わずモーレツに忙しいけれど充実した時間を過ごしてきました。

国内外の出張に加え、毎晩接待漬けの状態、お金の出入も通常感覚を逸していたと思います。当時、家内もエステティック業界で活躍、店の責任者を任されていたので、ほとんど絵に描いたような夫婦すれ違いの生活。ある時、ふとしたことで、こんな生活をいつまでも続けていてはいけないと感じることがありました。

3回目の訪問でのスピード移住

家内と雑談する中で、できれば「地に足のついた仕事をしたい」と田舎暮らしを具体的にイメージするようになり、田舎暮らしの雑誌や新規就農の情報収集を始め、出会ったのが当時の福栄村。いろいろな候補地がありましたが、海も好きなので「海に近い」という条件で絞り込むとここしかなかったのです。家内と相談して、1回行っ

てみるかということ、福栄村役場を訪ねました。当時の担当者は白神さんと佐伯さん、役所の人は思えない優しく心のこもった対応で、お2人の人柄にほれ込んだのも、この地を選んだ大きな要因です。佐伯さんの案内で紫福地区をはじめ村内を案内していただき、そして訪れた平蔵台、眼前に広がる素晴らしい風景を見て、ここだ!と一発で決心。家内ももちろん大賛成。初めてここを訪れてから3ヶ月後、3回目の訪問でのスピード移住、48歳の時でした。

当初目標の2ヘクタールをクリア

タバコ栽培を選択したのは、「収入が安定してるからタバコ栽培がいいよ」という地元農家の方のアドバイスから。荒れていた畑を家内と一緒に草刈りし、カズラを取り除いて耕しました。タバコ栽培を教えてくれたのは半田集落の田村さん、この方が私が尊敬する農業の師匠です。最初は慣れない仕事なので途惑いもしましたが、当初80アールで始めたタバコ畑、師匠やまわりの方々の温かい支援を受けて今では目標としていた2ヘクタールを経営できるようになりました。もちろん収入も、夫婦2人が生活するには十分な金額。

自然相手の仕事ですので、台風や遅霜などいろいろと障害はあります。でも結局最後は自分の力で

解決していかなければならない。種類は違っても、これはどんな仕事をしていても同じだと思いません。別に苦労だとは思っていません。それよりも、この素晴らしい自然、雄大な風景、そして都会では考えられないくらい濃くて温かい地域の方々との密接なお付き合い、この地を選んで、まさに大正解でした。

将来は農家民宿でもてなし

今でも昔の友人たちが、ここ平蔵台に癒しを求めて訪ねてきてくれます。確かに、この景色を見るだけでも都会の垢にまみれた心がヒーリングされる効果があると思います。いわゆるスロートゥリズムという世界ですが、65歳を過ぎて農作業がつかなくなったら、タバコ栽培を縮小して農家民宿をやりたいと考えています。

その時のことを考えてグリーンツーリズムのインストラクター資格も取得しました。次は船舶免許にもチャレンジしようと思っています。知人が萩のマリーナに船を係留していて、自由に使つていいと言ってくれていますので、その船を利用して農家民宿に来て頂くお客さんをもてなしたいという構想です。ただ、やはり歳をとったせい、最近海に出るとベタナギの日でも船酔い、どうしたものかと悩む今日この頃です。

坂純子さん福岡で初の出展

萩焼宗家・坂家初の女性当主へ

9月26日から10月2日まで福岡市天神の大丸本館で「萩焼 坂家展」が開催され、13代襲名を決意した11代の四女、坂純子さん（55歳）が、純子銘の作品を初めて出品しました。

坂家所蔵の初代から3代の茶碗や12代の作品とともに、純子さんの姫茶碗や花入れ、手びねりの皿など、女性らしい温かみを出した30点を出品。「新聞で展覧会を知った学生時代の友人が駆けつけてくれて、思いがけず懐かしく嬉しい思いをしました」。

純子さんは、萩光塩学院、武蔵野美術大学日本画学科を卒業。子どもの頃から父である11代の作陶をそばで見ると土に親しんできました。日本画家でもあった12代のもとで日本画の絵付け技法を学

びながら、萩焼作家としての道を歩んできました。純子さんの長男、悠太さん（19歳）も萩焼作家を目指し京都の大

た。2004年に12代坂高麗左衛門さんが54歳で死去して以来、当主不在が続いていますが、純子さんが、「長い間の空白は好ましくなく、坂家の伝統を受け継ぎたい」と、1、2年後の襲名を決意。約400年の歴史を持つ同家で女性当主は初めてとなります。



姫茶碗

学で勉強中で、将来は親子で窯の火を守ることも。「伝統の茶陶制作の道を精進したい」と、純子さんは話しています。

山口県立萩美術館・浦上記念館だより (0838・24・2400)

青磁を極めるー岡部嶺男展

12月16日まで

日本陶芸史に輝かしい足跡を残した、近代陶芸の巨匠・岡部嶺男（1919～1990）の没後初となる回顧展。愛知県瀬



織部縄文瓶

現在形の陶芸

萩大賞展

12月15日～1月14日

活動する陶芸家を対象とした作品の公募展、入賞作品を一堂に紹介。同時に、呈茶席やミュージアムコンサートなど。

戸にて、陶芸家・加藤唐九郎の長男として生まれ、「嶺男真流」と呼ばれる品格に満ちた創作陶芸の一境地を拓きました。初期から最晩年までの作品約170点により紹介します。▽入館料 一般1000円、学生800円 ▽休館日 月曜日

萩博物館だより (0838・25・6447)

萩博物館リニューアル

松下村塾開塾150年記念

長州男児の肝っ玉

松門四天王と桂小五郎

12月16日まで



吉田稔磨が池田屋事変で亡くなった際、身に付けていた懐中

松陰や門下生の中で傑出した「松門四天王」とうたわれた高杉晋作・久坂玄瑞・吉田稔磨・入江九一と、塾生の兄貴分だった

た桂小五郎の生きざまや幕末明治維新に命をかけた思いなどを資料約80点からたどります。

美しい日本のまち・萩

― 旅する民俗学者・宮本常一のまなざし ―

12月22日～4月8日

宮本常一が足跡を残した1960年代の萩地域、見島の写真群をもとに、宮本常一が萩のどのような暮らしに注目したかを読み解きます。



情報アラカルト

海外

■山口県・山東省友好25周年記念
展覧会「三輪休雪展」

11月11日(日)～12月21日(金)
中国山東省博物館西一展厅

関東地区

■東京たちばな会、からたち会関
東支部合同総会

関東地区の萩商業高同窓会と萩
工業高同窓会の合同総会。

11月10日(土) 午後3時30分～
東京都千代田区平河町 ホテルル
ポール麹町(麹町会館)

(03・3265・5361)

■東京須佐会

関東地区の須佐地区同郷会。11
月24日(土) 正午～

東京都港区高輪4・10・56 日立
金属 高輪和彊館

(03・3443・1717)

■日展

今年開催1000年を迎えた日展。
吉賀将夫が日展評議員として出展
します。

11月2日(金)～12月9日(日)
東京都港区六本木7・22・2
国立新美術館

■岡田裕つつわ展

(03・6812・9900)
11月6日(火)～12日(月)

東京都中央区日本橋室町1・4・
1 日本橋二越

(03・3241・3311)

■内田青虹歴史画展

歴史画、版画などを展示します。
11月15日(木)～21日(水)

東京都武蔵野市吉祥寺東町1・1
・19 リベスタギャラリー創

(0422・22・6615)

■ドームやきものワールド
2007

水津和之が出展します。
11月16日(金)～20日(火)

愛知県名古屋市中区大幸南1・1
・1 ナゴヤドーム

(052・719・2120)

■アイランダー2007

全国の島の祭典で、萩諸島の魅
力をPRします。見島の鬼ヨーズ
の製作体験もあります。

11月24日(土)、25日(日) 午前
10時～午後6時(25日は午後5時
まで)

東京都豊島区池袋 池袋サンシャ
インシティ文化会館2階

(03・3989・3331)

■西端峰苑書作展「めぐる春」

9月にモスクワ芸術博覧会で日
口国際優秀大賞を受賞した西端
順子さん(大阪府在住、萩高18期
旧姓岡村)の個展。
1月11日(金)～14日(月・祝)

東京都港区南青山2・11・15セビ
ア絵画館

H・A・C・ギャラリー
(03・5772・6225)

関西地区

■萩商37会同期会

昭和37年卒業の同期会。世話
人は北古萩町の長富光造さん

(0838・25・2078)

12月1日(土) 午後6時～
大阪府大阪市北区芝田2丁目4・
53 大阪弥生会館

(06・6373・1841)

■内村幹雄作陶展

11月25日(日) まで
兵庫県神戸市北区有馬町809
三津森本舗

(078・904・0106)

■濱中史朗展

11月3日(土・祝)～11日(日)
兵庫県芦屋市公光町10・10
B・Block

(0797・34・1678)

■おいでませ山口館

萩の真ぶぐの加工品(一夜干し、
「萩の真ぶぐ試食」

西京漬)の試食があります。
11月16日(金) 午前10時～午後6時

広島市中区紙屋町2・2・2
おいでませ山口館(広島)
(082・504・7001)

山口県関係

■たちばな会、からたち会下関支
部、巴城会総会

下関地区の萩商業高、工業高
萩高の合同総会。

11月22日(木) 午後6時30分～
下関市彦島 南風泊 活魚セン
ター(0832・67・8181)

■女流陶芸会山口県支部作陶展

松尾優子が出展します。
11月1日(木)～5日(月)

宇部市常盤町1・6・30
宇部・井筒屋

(0836・35・8100)

■ベアティル・ペアン作陶展

11月9日(金)～13日(火)
山口市後河原121
ギャラリー ラ・セーヌ

(083・924・4559)

■OYAGAMA↓TEN

大屋窯の器展。濱中孝子のジュ
エリー・セラミックアクセサリー
も展示します。

11月10日(土)～18日(日)
下松市山田315・2
華のうつわ

(0833・46・2237)

■萩焼の造形美

人間国宝 三輪壽雪の世界
「萩焼」の重要無形文化財保持者
(人間国宝)で、97歳の今も現役の
陶芸家として活躍している三輪壽

第54回日本伝統工芸展

陶芸家 岡田裕、玉村登陽、
野坂和左、波多野善蔵、波多野
英生の作品が展示されます。

◆金沢展 11月2日(金)～11
日(日) 金沢21世紀美術館

◆岡山展 11月15日(木)～12
月2日(日) 岡山県立美術館

◆松江展 12月5日(水)～24
日(月・休) 島根県立美術館

◆高松展 1月2日(水)～20
日(日) 香川県文化会館

◆広島展 1月23日(水)～2
月11日(月) 広島県立美術館

雪の80年の回顧展。
11月18日(日) まで

北九州市小倉北区城内1・2
北九州市立小倉城庭園

(093・582・2747)

萩市関係

■彩陶庵の企画展

フリースタイル フルカラフル
濱中孝子ほか県内で活躍する4
人の若手作家が出展します。

11月10日(土)～18日(日)
萩市呉服町1・3
彩陶庵ロフト

(0838・25・3110)

■俣宿天十平の企画展

○山本敦行うつわ展
11月10日(土)～20日(火)

○オールド・キリム展

12月1日(土)～9日(日)
萩市南古萩町33・5 俣宿天十平
(08388・26・6474)

アートショップTAZZの企画展
○手染め手編み西村真紀展
12月1日(土)～9日(日)
萩出身で、東京で活躍中の西村さん。

○金子愛展
12月15日(土)～23日(日)
萩出身(父は金子信彦)で、地元萩では初の個展。クリスマスイメージし、キャンドルホルダーやランプなど。

萩市東田町144
アートショップTAAZ
(08388・26・6020)

■陶と花のコラボレーション
県立萩美術館浦上記念館の「現在形の陶芸 萩大賞展」にあわせ

- 秋本愛子さん (三重県伊賀市)
宮内秀和さん (兵庫県西宮市)
繁松美美子さん (福岡県春日市)
来島敏秋さん (福岡県福岡市)
本尾朋子さん (福岡県福岡市)
島崎純子さん (福岡県福岡市)
角屋吉昭さん (福岡県福岡市)
金子直さん (大阪府河内町)
北村友美さん (東京都台東区)
永田佐智子さん (萩市)
藤井輝隆さん (東京都小金井市)
楠牟禮幸子さん (萩市)

て開催します。
12月15日(土)～24日(月・休)
萩市呉服町1 旧久保田家住宅
萩市商工課
(08388・25・3108)

テレビ・ラジオ情報

■「るり色の砂時計」
〈秋の萩しっとり旅〉
秋の落ち着いた萩のまち並みを歩き、おいしい食べ物、身も心もあたたまる温泉を紹介。
放送予定日 12月2日(日) 午後0時15分～55分
放送局 テレビ朝日系九州各局

※YAB山口朝日放送は、12月9日(日) 午前5時15分～
■維新の里 萩城下町マラソン
12月9日に開催される大会の模様を録画放送されます。

- 野村茂治さん (福岡県福岡市)
中村房代さん (萩市)
吉武正利さん (静岡県静岡市)
鳥切かずみさん (東京都中野区)
大槻茂さん (東京都世田谷区)
井上章さん (東京都杉並区)
阿部勝美さん (山口市)
横田和美さん (山口市)
藤原俊明さん (山口市)
桶屋茂さん (山口市)
田村充正さん (萩市)
(8月28日～10月26日 23人)

新規加入会員ご紹介

- 山口朝日放送(YAB) 12月23日(日) 正午～午後0時55分
■NHKラジオ公開生放
「鎌田實いのちの対話」
明治維新140年を記念して、萩から全国へ生放送でお届けします。
鎌田實(長野県諏訪中央病院名誉院長)、小菅止夫(旭山動物園長) ほか
放送予定日 平成20年1月14日(月・祝) 午前8時45分～11時30分
放送局 NHKラジオ第1放送

出版情報

■萩の風景画入り一筆箋
松下村塾や城下町など、萩の觀光ポイントを吉村隆之助が描きました。10枚綴り
価格 300円
萩市観光協会(08388・25・1750) 萩画房(08388・22・2427)

プレゼント

- ①萩焼(萩陶苑)を2名様に
②絵はがき(萩の町並み/画1萩野健)を3名様に
③松陰カレンダー2008を3名様に
応募方法 ハガキに希望品目、住所、氏名、電話番号、近況などを明記のうえ、萩ネットワーク協会フレンセント係まで。締切は11月30日

萩市ホームページをリニューアル!



「ここをクリック!」

萩市では、ホームページを誰もが使いやすい親しみやすいものにするため、4月にリニューアルし、11月からは「ふるさと便り」のコーナーを設けました。

- 各地域(旧市町村)ごとに出来事や行事の報告を掲載
- 情報誌「萩ネットワーク」のバックナンバー(最近2年間分は除く)を掲載
- 萩市に関するテレビ放映のお知らせ
- ホームページ <http://www.city-hagi.yamaguchi.jp>
- 問い合わせ 萩市広報課 (08388・25・3178)

萩ネットワーク協会 長期会員に特典

年会費3年分で5000円割引

萩ネットワーク協会では、来年1月から、年会費を3年分まとめてお支払いされた方の年会費を割り引く特典を始めます。

会員の皆様には、毎年、更新時期に年会費をお支払いいただいておりますが、退会する意思がなくなっても、更新手続きをお忘れになつていたり、郵便局へ年会費を支払うに行くのが不便等の事情により、退会されたというケースが見受けられます。そこで、当協会では次の

事業を推進しますので、ご協力を願います。

①長期会員への特典 一般会員の3年分の年会費6000円を5500円に(500円割引)

②口座振替の推進 更新手続きのいろいろな口座振替をぜひご利用ください。取扱金融機関は、ゆうちょ銀行、山口銀行萩支店、萩信用金庫本店です。

■申し込み 萩ネットワーク協会事務局(08388・25・3178)



A 4版 / 82 ページ
 価格 1,000 円
 萩博物館
 ☎ 0838・25・6447

～松下村塾開塾150年記念～
 吉田松陰と塾生たち

吉田松陰絵伝（2ページ紹介）の15枚も全部掲載。写真や図表を多く取り入れ基礎的資料として分かりやすいと好評。

松下村塾のあゆみに加え、松陰と塾生との関係や塾生の経歴なども解説する「本文編」、萩博物館の企画展「長州男児の肝っ玉・松門四天王と桂小五郎」の一部を紹介する「図版編」の二部構成。

表紙写真は下瀬信雄氏撮影。



吉田松陰2008カレンダー

松陰先生の足跡を県内各地（下関、岩国、周南、萩など）の石碑でたどる、石碑・詩文の解説付きカレンダー。山口県限定販売

B 3版 / 13 枚綴り
 価格 800 円
 発行 マシヤマ印刷
 ☎ 0838・22・1103



「萩のまち、そぞろ歩き」
 ガイドブック
 「萩の町並み」絵はがき

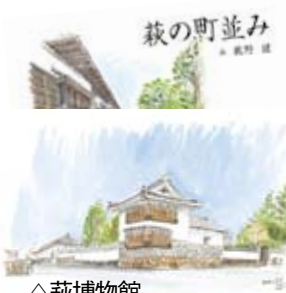
市内の散策を楽しむ“そぞろ歩き”コースとして、萩城跡・堀内、城下町・御成道、浜崎・寺町、藍場川・土原、平安古、旧松本村、笠山・越ヶ浜の7つのエリアに分けて、美しいイラストとともに見どころを紹介。文は元「マリ・クレール」編集長の井上明久氏。

A 4版 / 24 ページ
 価格 100 円

ガイドブックの表紙と挿絵で紹介されている藪野健画伯のイラストを絵はがきで販売します。

価格 400 円（6枚セット）
 萩市観光協会

☎ 0838・25・1750



△萩博物館



△萩学校教員室

映画「長州ファイブ」DVD



レンタルも始まりました。通常版 2,940 円、スペシャルブックレット付 5,040 円、発売：長州ファイブ製作委員会
 ☎ 0832・67・5151

新刊の案内

ブックレットシリーズ●萩ものがたり



Vol 15 写真集 桂小五郎

- 定価 500 円（税込）
- 一坂太郎（萩市特別学芸員）

幕末、長州藩が危機に瀕した時、桂小五郎は身分を偽り但馬に潜伏した。周囲からは逃げの桂小五郎と揶揄されたが、再生を果たし小五郎は維新の元勳木戸孝允として日本の近代化に大きな足跡を残す。但馬時代を中心に写真で小五郎の足跡を追う。



Vol 16 萩沖の魚たち(秋・冬編)

- 定価 600 円（税込）
- 中澤さかな（萩シーマート駅長）
- 堀 成夫（萩博物館研究員）

萩の魚市場には四季折々の魚介類が、常時 50 種程度水揚げされ、その多種多様さは、産地市場として全国トップクラス。前編(春夏編)に続いて、秋～冬の魚、約 30 種類を、食材の観点から紹介、また魚種ごとの特徴や生態を紹介。

◆既刊

- | | |
|----------------------|-------|
| ① 萩の椿 | 600 円 |
| ② 高杉晋作 100 問 100 答 | 500 円 |
| ③ 萩開府 | 600 円 |
| ④ 萩まちじゅう博物館 | 600 円 |
| ⑤ 松陰先生のことば | 500 円 |
| ⑥ 密航留学生「長州ファイブ」を追って | 600 円 |
| ⑦ 萩と日露戦争 | 500 円 |
| ⑧ 萩の巨樹・古木 | 600 円 |
| ⑨ 吉田松陰と現代 | 600 円 |
| ⑩ 萩沖の魚たち(春・夏編) | 600 円 |
| ⑪ 萩の史碑 | 500 円 |
| ⑫ 山田顕義 一法治国家への歩み | 600 円 |
| ⑬ 川柳中興の祖 井上剣花坊 | 600 円 |
| ⑭ 高島北海—HOKKAI 萩とナンシー | 600 円 |

購入申込・問い合わせ

有限責任中間法人 萩ものがたり事務局
 （萩市広報課内）
 TEL 0838・25・3233 FAX 0838・26・5458